

キャリアセミナー（職業能力開発）

『ケア・支援をめぐる現状と可能性 ～養護・保育・介護の視点から～』

第一部 家族と離れて暮らす子どもたちの未来

講師：須田昭司さん（上毛愛隣社 児童養護施設 地行園 施設長）

第二部 ケア・支援をめぐる可能性と展望 ～保育・介護の視点を踏まえて～

話題提供者：久木元美琴さん（奈良女子大学研究院 人文科学系 助教）

井口高志さん（奈良女子大学研究員 生活環境科学系 准教授）

パネルディスカッション

パネリスト：須田昭司さん、井口高志さん、久木元美琴さん

コーディネーター：大淵裕美さん

感想

●前半は、ある起業の物語として聞きました。理念と現実をどう結びつけていけるのかを考えてみる機会となりました。後半は、テーマの通り、子どもたちに関わる話として興味深かったです。特に現状は、報道などで知っていたことと重なる部分、重ならない部分があり、その差がメディアの介在によるのか、そうでないのか、知りにくいところです。すぐに思いつくことでは、大都市圏と地方都市、農村部の差の可能性です。大阪などの事例も挙げれば良かったかと思います。また我々個人が施設と関わるとすれば、どのような方法があるのか、具体的に教えて頂きたかった。

●群馬県の児童養護施設 地行園の設立の歴史、現状を知ることが出来ました。施設のイメージが変わり、十分な衣食住のもとに生活していることを知りました。しかし施設症候群の問題などもあり、心が痛みました。施設に来る 10 人のサンタさんの話や、ランドセルがあまっている話に心が温まりました。里親割合が増えていくことを願っています。

●大変勉強になりました。今後、より深い理解と支援が重要になる（必要とされる）場所だと思いました。子どもたちひとりひとりの未来のために、私に何が出来るのかと問い直しする良い機会になりました。有難うございました。

●私は障がい者の学校の先生もしてきましたので、ヘッドハンティングされた時もあります。本当に自分では理解できない行動をされた時、どうしたらいいか解らないでいた自分を思い出します。日本の中でまだまだ差別される子ども達が、差別されない社会になって欲しいと思います。

●私の娘が、子どもを産んでから離婚して、結果的にシングルマザーになりました。時にきつく（2歳半の）孫を叱ります。余裕がないのでしょう。お金の面でも、家事労働においても。感情的に怒っている様に見受けます。私は時々週末に孫を預かっています。それでも孫は母親が一番好きです。一緒にいると安心なのでしょう。幼い子を育てる時の環境について、色々と考えてしまう毎日です。自然災害などにより、ひとりで生きていかなければならない子ども達の養育、親に捨てられた子どもの養育、それぞれ受け止めは別でしょうが、受ける施設は大変やろうと思います。完全なものはないでしょう。子どもが育つための最低限の環境整備のために私が何が出来るのか、うつつと考えました。